



▲子供たちに交じって本を借りにきた浅理ヒデさん（写真左）と天野久子さん。二人とも学校の近くにお住まいで、買い物に行く前によく立ち寄るといいます。「ない本でもリクエストすれば、数日後には読めるし、何と言っても近いのがうれしい」と開放図書館の利点を話すのは浅理さん。この「いちい文庫」を利用するようになって8年になるという天野さんも、「料理の本や、手芸の本をよく借りに来るんです」と楽しそうに話してくれました



▲開放図書館では、開放日や行事などのお知らせを載せた広報紙を毎月発行。在校生への配布や町内会への回覧を行っています。写真は、本郷小学校の「いちい文庫だより」



▶「いちい文庫」開放司書の亀田正子さん（写真左）と本間裕子さん。「とにかく楽しい」と話すのは本間さんで、友だちをつくりたいと思って活動を始めたという亀田さんは、「地域のお年寄りにも利用してほしい」と呼びかけます

（南郷通10丁目南）では、昭和六十三年度に開放図書館がオープンし、「いちい文庫」と名付けられました。開放日は月・水・金の週三日ですが、この曜日は学校によって異なります。図書館の本は、在校生はもちろんのこと、地域にお住まいのどなたでも借りることができます。なお、住所にかかわらず、どの開放図書館でも利用することができます。

い ちい文庫では、現在四十人のボランティアたちが交代で運営に当たり、そのうち二人は開放司書としてすべての活動に参加しています。開放司書は、ボランティアの中心的役割を担いますが、特に資格を必要とせず誰でもできます。ボランティアの皆さんは、図書の貸し出し業務のほか、「工作会」や「読み聞かせ会」などさまざまな行事にも、自分の得意分野を生かして取り組んでいます。開放図書館では、ボランティアの受け入れを随時行っていますので、興味のある方は足を運んでみてはいかがでしょうか。

秋も終わりに近づいてきましたが、ちょっと開放図書館に立ち寄り、子供たちに交じって本を借りてみませんか。

学校に入るとき

防犯のため、学校の玄関には鍵が掛かっています。玄関に設置されているインターホン（写真）で「開放図書館に来ました」と告げてください。職員室からの操作で鍵が開きます。



本郷小学校
「いちい文庫」の開放日時は、月・水・金曜日の午後一時～四時（十一月～三月は午後三時三十分まで）。貸し出し可能蔵書数は一万二千二百六十二冊で、いつも四、五人のボランティアがお世話をしています。